

# 「東日本大震災」対策 news NO.32

2011年4月16日(土)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 復興は被災者・被災地の要求に沿って 復興税や消費税はとんでもない

震災から1か月以上が経過しました。東日本大震災と東京電力福島原発事故による被害の全容がまだつかめないなか、政府は4月14日に東日本大震災被災地復興のビジョンを策定する「復興構想会議」（議長・五百旗頭真防衛大学学長）の初会合を開催しました。

この会合のなかで、五百旗頭議長は、「東北モデルとセットで復興財源として国民全体で負担する「震災復興税」の創設を提起しました。これに合わせるかたちで政府は、通常の国債の発行と震災特例国債の発行と、償還財源となる復興税の創設を一体的に決める検討に入りました。

この間の大震災後の教訓から言えることは、復興は住民本位で行うべきもので決して「上から押し付ける」ものではあってはなりません。今回各委員から示された「復興計画」は、そうとも受け取れる内容です。何よりも被災地の要求やコミュニティを重視した「復興計画」であるべきです。

同時に、合わせて示された「復興税」＝特別消費税は身柄ひとつで避難してきた被災者にも容赦なくふりかかることになり、被災者・被災地の生活再建をいっそう困難にするとともに、冷え切った消費にいっそう拍車をかけることとなります。

日本全体がきわめて困難な状況に落ち込んでいる時こそ、大企業がため込んだ内部留保を復興のために活用するとともに、不要不急の財源、軍事費や米軍への思いやり予算、大企業への減税や優遇のための予算、政党助成金などを削減し、復興に当てるべきです。

同時に、安全優先の原子力政策への転換とともに、再生可能な自然エネルギー政策への移行などの課題も重要となっています。この間、全労連や被災地の代表は福島原発事故の原因や対応をめぐる政府や東京電力への要請行動をおこなってきましたが、今回の事故が人災であることは認めず、今後の原子力政策の見直しについても対策が途中として明確な言明を避けています。

私たちは引きつづき被災者・被災地の支援と復興に力を注ぐとともに、復興税や消費税増税のたくらみを許さず、政府と東京電力が被災者の立場に立った被害の救済と復興のための努力を求めてとりくみを強化していく必要があります。

## 東京電力 仮払い1世帯100万円支給 非難を余儀なくされている人の切実な声を無視できず

東京電力は4月15日、福島第1原発事故で避難を余儀なくされている周辺住民に仮払金補償金を支払うと発表しました。

仮払いの対象となるのは「避難」及び「屋内避難」が指示されている地域の人たちで、1世帯当たり100万円、単身世帯は75万円となります。この決定にたいし、「遅すぎる措置」「事故をはやく処理し、自宅に戻れるようにしてほしい」など、東電にたいして厳しい声が寄せられています。

4月14日にJA全中が東電に原発事故への抗議と「事故に伴うすべての補償を速やかに行うよう」要請しましたが、東電社長は抗議文を受け取ったら、要請団と話をすることなく、すぐにその場を退席したとのこと。当然のことながら、JA全中の代表からは怒りの声が上がったとのことですが、「安全神話」を国民に押し付けてきた東京電力の社会的責任とこれからの対応がさぞく問われる状況となっています。

# コープふくしまへの震災支援活動に参加して



2階部分だけがそのまま流れ落ちています

コープおおいた労働組合書記長 佐竹俊秀

1日(金) コープやのめ店、店長のやさしい笑顔にやる気満々になり、午前中は、駐車場係りとして入口に立ち、(駐車場は1階～3階、2階は震災の影響を考慮し、駐車不可)

3階への誘導を繰り返す。開店後、2時間車の入庫は絶えず、右手を回し、安全第一で誘導。(遠くに望む磐梯山の雪化粧に、ここは東北だと、何度も実感・・・) 昼食のお弁当をいただき、売り場へ。商品棚はほとんど空の状態だが、ようやく、最初の入荷。店の定職さん、アルバイトさんに迷惑にならないように必死に陳列作業をこなす。予定の半分の入

荷しかない、それでも夕方近くまで大きな体を小さく丸めながら、奥の棚に商品を並べる。

2日(土)～4日(月) 自分たちにできることは他にも・・・を毎日、お店に着く間、トラックの中で話しながら・・・やのめ店は、福島市内でも500坪のSM、すぐ3～7分以内にあわせて3店のコープふくしまの店がある、こんなに近くに・・・

「月山の水」店頭に100ケース、確実に初日で完売状況！店長と相談をして水を運ぶことを申し出る。店長のはからいで近く6店舗の状況を聞き取り、やのめ店が「月山の水」が飛ぶように必要にされている。郡山市や伊達市のお店から水を運ぶ、そのおかげで8店舗の店の被害状況と組合員さんと会話することができました。(もちろん、職員や定時職員さんとも)

他店の被害は・・・二階の組合員室やサークル室、足の踏み場もない状態、天井が崩れ、壁や床はひび割れ、立ち入りできない状態。店内はかろうじて3分の1のスペースを利用しての営業。バックヤードは利用できる状態ではなく、在庫もほとんどなし。(売るものがない店舗、しかし、なんとかして組合員さんの期待に応えようとする定職さんたちの姿・・・) おもわず、水の重さとひとの心の重さが同期してしまう。

店舗につく前は、まさか営業中とは・・・(すごい！)

「ひとはみんなのために。みんなはひとりのために。」(生協の理念)

まさにこの言葉につきるのだと痛感しました。この支援活動に第2陣として参加した1週間は、人間として、生協人として、とても大切な日々でした。生と死を考え、ひととしてのあり方、自分自身の存在価値を残りの人生の中で発揮していきたい。どういう形でも・・・

「これでいいということはないが、これが今のわたしの精いっぱい姿です」と思えるように。コープふくしまのみなさん、大変お世話になりました。ほんのわずかな時間でしたがありがとうございました。

全労連のボランティア支援への参加(予定)

4月14日～17日 かながわ生協労組：福田裕行委員長

4月18日～22日 かながわ生協労組：梅津欣也副委員長

4月21日～24日 日生協労組：竹腰英樹書記次長

4月25日～29日 生協労組ちば：高橋巨委員長

引き続き、募金へのご協力をお願いします